

2017年度 春の大セミナー 5 t h 2カンテール②

総評

Judge 馬場（獨協4）

川本（立教4）

参加者

平野（法市2）

糸山（慶應2）

布川（立教2）

津田（フェリス2）

山本（早稲田2）

雀部（武蔵2）

角田（明学2）

浅野（上智2）



## 構成

- ・ 議論の流れ
- ・ 選定理由

今年度春の大セミナー、ニカンテーブル②のジャッジをさせていただきました獨協大学4年の馬場です。これより議論の流れについて述べさせていただきますが、実際のテーブルとの解釈の差が生じてしまう可能性もありますが、ご容赦頂きますようよろしくお願いいたします。

## Narrowing

津田（フェリス2）のナローにより、ニカンの戦場の幕開け、オピメボートに雀部（武蔵2）・平野（法市2）・布川（立教2）が立候補した。主に候補者の持つコンパリアイデアの定義やダウトのストラテなどの質問が行われ、ボートの結果平野の臓器移植推進のオピニオンシートが選出される。

## ASQ (21:00~21:44)

質疑応答が繰り広げられる。

例) ・他に S/M を消す way はあるか？

・臓器移植への意志と他者（ドナー）への罪悪感におけるマインドコンパリアイデアを TG がしているか？

・医者が脳死者の家族にテストを行う上で許可を取る理由はなにか？

・臓器移植ができないことにおける他の原因は存在するのか？

ASQ においては、大きな混乱もなく進んでとても良い印象だった。しかし、ニカンのようなテーブルだと、大きな論点が出てきた時に停滞が生まれる可能性が高い（このテーブルも例外ではなかった）ことを考えたときに、少しでも相手より ASQ で介入量を保つために自分の話のタネを準備しテーブルに落とし込もうという意識を持つべきであったと考える。なぜならば、議論のタネをプレバして落とし込むことなら誰でもすぐにできるしその

一つで順位に影響してくる。しかもアーギュメント等の大きな論点のところでは停滞等が生まれることを考えると、そういった泥臭い努力が良い結果に導くこともある。今回のテーブルでも特に2位以下はかなり拮抗していたので、そういう意識を持った人がいたのなら、すぐに順位に変動があったと考える。

## NFC (21:04~)

NFCでは二つのアイデアが検証された。

1 角田(明学2)によって「多くコンパリを行ってきた実際の日本政府がプランを執行していないのであれば、m/s/bの余地はない」というデータに対するオブジェクションを示した。平野、布川、糸山を中心にカンファメーションや質問が展開されおよそ1時間で実際の日本政府のコンパリでの結論が優先されるべきということが確認しコンパリではなされることになった。

2 次に津田(フェリス2)によって「現状の方がターゲットにとってm/s/bであるから、プランをとってもm/s/bの余地はない」というデータに対してオブジェクションを示した。

津田の意図は、TG目線でm/s/bを確認するための比較の必要があるというものだった。このアイデアに対しても約1時間、アイデアのカンファメや必要性のダウト等を議論して、A.P.A.に生まれるS/Mを今話すことが難しいということが認められ、他のエリアで話されることとなった。

その後、糸山(慶應2)がアイデアを提示しようとしたところで時間が来てしまった。

今回のテーブルは、話の理解や話し方の議論に多くの時間を割いたり、周りの人の話をあまり聞かなかったりしてしまった分あまり有効な発言を見受けられず、いわゆる進捗と深度においてあまり評価をできませんでした。それゆえに順位等も発言量や、一つ二つの優れた発言で決まったという印象でした。このようなテーブルの中でどのように立ち回ると良いのか?私の個人の見解としていくつか紹介させていただきます。

・次に進めるために話されるべき論点の提示

例) オピニオンプレゼンターの設定したエリアタスクを満たしているかどうか？

データセンテンスを証明するために必要な要素はなにか？

発話者が何を求めて発言しているのか？その意図は汲めているのか？

・コンスタントな介入

たくさん介入することで、テーブルに喋る人であるという印象を与え話せるようになる。

・周りの人に味方になってもらう

例) 誰よりも人の話を聞いておく。

周囲を見て、理解していなそうな人のためにカンファメしてあげる。

周りを説得する意識でプレゼンする。

・ one by one の意識

いくつか例を挙げさせてもらいましたが、どれも個人的には基本的なことだと思います。しかし、こういうテーブルであるからこそ誰よりも基本を大事にする意識を持つと良いと思います。

春セミお疲れ様でした。ジャッジとして春セミを経験して感じたことがあってすこしだけ紹介させていただきます。それは、もっと本音を相手に言ってみても良いかな〜ってことです。

例えばタスクを使ってアーギュを流すとき、タスクがあるからって言うだけではなくタスクがどうこうっていう議論をしたいのか？またアーギュしてる人はタスクで流されるだけではなく議論したいなど。本音を言うことで相手の気持ちを変えて自分の持っていきたい方向に持っていくことが意外とできたりするので、もっと本音を言ってみても良いと思

ます。アッセンブリーもありますが、残りの期間で全然逆転できると思うのでぜひ頑張ってください(\*´▽`\*)

獨協4年 馬場俊弥 [g4221312@gmail.com](mailto:g4221312@gmail.com)

個人総評 文責：川本（立教4）

#### 第1位 布川（立教2）

テーブルに存在するアイデアを真っ先に理解し、そのアイデアの浸透と二項対立を明確化する意見をぶつけることで、議論の推進力となったことを評価しました。布川は、メンバーの発言の意図や、停滞を解消するための議論の前提を見抜く力が長けていたように思います。ただ、布川の提示したSやダウトから話がずれる場面が多くみられ、結果論ですが議論の遠回りになっていたため、話が離れたら引き戻し、自分の意見を自身で収束させていくことを意識してみてください。まだまだ実力を伸ばし活躍していくことを期待しています。

#### 第2位 平野（法市2）

オピニオンプレゼンターとして議論の進行への貢献、議論を停滞させないためひとつづつ話を終わらせていく姿勢を評価しました。周りに傾聴力を持たせることができる冷静なふるまいが平野の魅力だと感じました。一方で、他のひとの話への介入量が限定的になっており、セオリーに基づく介入に留まっていました。あらゆるアイデアに対して自分の意見を持つことで、介入量も増え、より良い議論を目指せるように思います。他のテーブルにて、上級生がいる中での立ち振る舞いが上手いと素直に感じたので、今後は同期の中でも頭一つでるために、周囲を巻き込める議論を目指して行ってほしいです。

#### 第3位 角田（明学2）

NFCでのアーギュを通して自身のアイデア提示をしていたこと、津田のアイデアにおいて他のメンバーのSの有効性をフォローする形で議論の進行度に貢献したことを評価しました。春セミを通して、ひとの意見やSを通さないための介入が多くみられる中で、角田は他者の意見を利用し議論を進めることができていました。二カンテーブルに限らず、たとえ他のひとの意見でも、そのアイデアが正しいと考えられるならば協力することも一つの議論の貢献の形だと思います。今後もその姿勢を活かし成長し、アッセンでは満足のいく結果を勝ち取ってくれることを期待しています。

※2位と3位の差は僅差であり、発言ひとつで順位が変わりえました。また、4位以降に大差はありませんでした。

#### 第4位 糸山（慶応2）

ひとの意図意見を汲んだ有効なCでの介入を評価しました。糸山の発言は数こそ限定的ですが、ひとつひとつの発言の質が高いため、介入量の変化だけで順位に大いに影響するように思います。アーギュを通して自分の意見を持っていましたが、3時間の中で議論できずテーブルにおいての価値を評価できなかったことは残念です。自身の意見提示や3時間で議論の結論を得るため、積極的に議論を引っ張っていく力をつけることで伸びていくと思います。頑張ってください。

#### 第5位 津田（フェリス2）

NFC アーギュを通した自分の意見の提示、津田のアトモスの良さを利用し議論を落ち着ける役割を担っていたことを評価しました。一方で、自分のアイデアに対する介入に振り回されず常に議論の中心にいる意識を持つこと、コンスタントに介入することにおいては、まだまだ上手くなるための余地があるように思います。大学を巻き込んで、活躍していつてくれることを期待しています。

#### 第6位 雀部（武蔵2）

Sが乱立した際、総括し停滞を防ぐ有効なCをしていたことを評価しました。ただ、ひとの話に対し介入が限定的でした。他のテーブルにて雀部を評価できる点は多くあったため、どんなテーブルでも自分の力を発揮し活躍できるようになることを望みます。応援しています。

#### 第7位 山本（早稲田2）

中立的な立場で、議論の進行に貢献する姿勢を評価しました。しかし、山本の介入の有効性がメンバーに浸透しておらず、介入を後回しにされてしまう場面が何度かみられたことが悔やまれます。中立的なスタンスでの介入において、自分の介入の必要性の提示とアイデア提示者に話を振りつつ巻き込むことができれば伸びるように思います。頑張ってください！

#### 第8位 浅野（上智2）

オピニオンプレゼンターやメンバーの意見を引き出すためのQを中心に介入していたことを評価しました。ただ、引き出した意見を議論の発展や推進につなげるアイデアやSがなかったため、せっかくの介入を活かしきれていなかったように思います。積極的な介入でアッセンではさらなる成長をしてくれることを望みます。

春セミ、おつかれさまでした。